

第10回揖斐川町消防操法大会

～迅速・適切な消化活動の基礎となる操法技術を競う～

5月31日(日)、市場グラウンドで、第10回揖斐川町消防操法大会が開催されました。消防技術の向上を目的としたこの大会には、40チーム(小型ポンプの部23チーム、ポンプ車の部17チーム)が出場しました。

動作の正確さやスピードを競う消防操法では、日頃の訓練やチームワークが試されます。

郡大会への出場権がかかったこの大会、どのチームも白熱した操法を展開しました。
出場隊の皆さん、お疲れ様でした。
大会の結果は次のとおりです。

《小型ポンプの部》

優勝	大深分団	第2班
準優勝	大深分団	第4班
3位	北方分団	第2班
4位	北方分団	第3班
5位	大和分団	第3班
6位	揖斐分団	第2班

《ポンプ車の部》

優勝	揖斐分団	第2班
準優勝	小島分団	第2班
3位	坂上分団	
4位	徳積分団	第1班
5位	名礼分団	第1班
6位	大和分団	第2班



▲ポンプ車の部優勝 揖斐分団 第2班



▲小型ポンプの部優勝・準優勝 大深分団 第2班・第4班

久瀬地域

土砂災害防災訓練

5月24日(日)、平成27年度揖斐川連合総合水防演習・広域防災訓練のサテライト会場として、旧久瀬小中学校グラウンドで久瀬地域土砂災害防災訓練が行われました。

訓練は長時間の降雨により飽和状態となっており、土石流や大規模な土砂崩れが発生するという想定で行われました。避難訓練に参加した住民の皆さんも真剣な面持ちで避難を行い、消防団、消防組合などによる訓練の様子を見守っていました。



▲揖斐郡消防組合による倒壊家屋救助訓練

恵みの森林づくり協定 締結式

5月12日(火)、岐阜県庁で大垣共立銀行、揖斐川町、岐阜県の3機関による恵みの森林づくり協定締結式が行われました。恵みの森林づくり協定は、揖斐川町日坂の揖斐高原スキー場ゲレンデ跡地で「OKB森林共和国」と称された森林づくりを行うものです。

ゲレンデ跡地には、約250本のヤマザクラやカエデなどを植樹することで、花見や紅葉を楽しむことができる森林を再生し、地域内外の人たちが交流できる独自イベントも企画していく予定です。大垣共立銀行、土屋頭取は「住民と協力しながら、誰もが楽しめる森林へ再生させていきたい」と意気込みを語っていました。



協定式の様子 左から古田知事、土屋頭取、宗宮町長



▲多くの人で賑わう販売コーナー

5月30日(土)と31日(日)の2日間、花と緑をテーマとした祭典「いび花と緑のまつり2015」が揖斐川町中央公民館で開催されました。愛好団体でつくる実行委員会が主催したこのイベントには盆栽や色とりどりのサツキ、ひょうたんなどの丹精込めて作られた作品、約200点が展示され、来場者の目を楽しませていました。

屋外では寄せ植え教室や物産、花の苗などの販売も行われ多くの人で賑わいました。

また、会場に設置された花と緑の相談コーナーでは、花や盆栽の手入れのアドバイスが行われ、来場者は熱心に耳を傾けていました。

いび花と緑のまつり 2015



▲代表者による桜の植樹

5月31日(日)、谷汲緑地公園で揖斐緑と水のまつりが開催されました。緑地公園は今年の10月に開催される第39回全国育樹祭の式典会場にもなっています。「伝えよう 豊かな緑 育む心」をテーマに行われたこの式典では、緑化功労者として、徳山ダム上流域に実のなる木を植え続けている北方小学校、北和中学校、NPO法人揖斐自然環境レンジャーの3団体が表彰されました。

また、記念植樹も行われ、緑地公園には7本の桜が植えられました。

揖斐緑と水のまつり



▲色鮮やかなシナイで魅せる谷汲踊

5月10日(日)、第2回谷汲参道新緑まつりが開催されました。今年で2回目を迎えるこのイベントは、県内屈指の桜、紅葉の名所である谷汲山参道の新緑に色づいた若葉の魅力を伝えようと企画されたものです。

800メートルの参道には、桜と紅葉が交互に植えられており、それぞれが初々しい若葉を芽吹かせています。

まつりでは、郷土芸能である谷汲踊の上演の他、フリーマーケットが行われ、大勢の観光客が足を運びました。

また、参道を散策しながらゆっくりと買い物や食事をを楽しむ人も多く見られ、新緑の下での癒しを満喫していました。

谷汲参道新緑まつり



▲指導を受ける坂内中の生徒

6月1日(月)、坂内中学校体育館でトップアスリートによる卓球の指導が行われました。現在、2年生2名、3年生3名が在籍する坂内中学校では5名全員が卓球部に所属しています。そこで夏に開催される中体連に向けて、生徒たちの意識、技術を向上させるために、現朝日大学卓球部コーチであり、平成22年度日本リーグ最高殊勲選手賞を受賞した米塚暁氏を招き、指導していただきました。

生徒たちはプロとして最前線で活躍していた選手を前に、とても緊張した様子でしたが、少しでも自分たちの技を磨こうと真剣な表情でアドバイスを耳を傾けていました。

トップアスリート出前指導

～坂内中学校卓球部～

養基保育園イチゴ狩り

5月21日(木)、揖斐川町胥永の岩間農園で養基保育園の年長、年中児55名によるイチゴ狩り体験が行なわれました。今年で4回目を迎える岩間農園でのイチゴ狩り体験は、地場産業の魅力にじかに触れてもらおうと企画されたものです。

甘いイチゴの香りが漂うビニールハウスの中で、園児たちは赤く大きなイチゴを手でつかみとって、とてもおいしそうに笑顔で食べていました。

また、園児たちは保育園に残っている他の子どもたちのために、一生懸命イチゴを探していました。持ち帰ったイチゴの一部はジャムにして味わったそうです。



▲イチゴを食べる園児たち

貝原棚田田植え体験

5月21日(木)、県の「ぎふの棚田21選」に認定されている春日美束の貝原棚田で、春日小学校25名の児童が田植え体験をしました。

300年前から受け継がれてきた貝原棚田は、等高線に合わせて細かく作られた美しい形状が特徴で、168枚(3.5ヘクタール)から構成されています。

児童が田植えをしたのはそのうち4枚(約1アール)の田んぼで、地域の人に教わりながら丁寧に苗を植えました。

6年生の野原彩永さんは、「土に足を取られて大変だった。でも昨年より苗を植える間隔がうまく取れ、上達したと思う。きれいな棚田がこれからもずっと続いていてほしい。」と語りました。9月末には、収穫、足踏み脱穀も体験し、できた米はおにぎりにして食べるそうです。



▲貝原棚田で田植えを行う春日小の児童

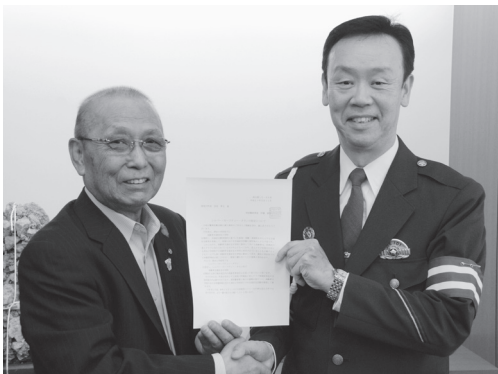
シルバーセーフティタウン

清水小学校区が指定される

5月11日(月)春の交通安全が始まり、揖斐警察署の前では、交通安全街頭指導所が設けられ、ドライバーに安全運転を呼びかけました。

また同日、揖斐警察署は、高齢者が関与した交通事故が増加していることを受け、多くの人に高齢者交通安全大学校への参加を呼び掛ける為に、揖斐川町清水小学校区をシルバー・セーフティ・タウンに指定し、伊藤善弘署長が宗宮町長に指定書を提出しました。町と揖斐署が歩調を合わせ、交通事故防止活動に取り組んでいくことを誓いました。

5月25日(月)には、清水小学校区高齢者交通安全大学の開校式が行われ、参加者は交通安全や防犯に関する講話を熱心に聞いていました。



指定書の交付(写真左:宗宮町長、写真右:伊藤署長)

特定外来生物駆除作業

河川工事を考える会

6月10日(水)、谷汲緑地公園付近の名札谷沿いでオオキンケイギクの駆除作業が行われました。

オオキンケイギクは、北米産で繁殖力が極めて強く、生態系に重大な影響を及ぼすことから「特定外来生物」に指定され、栽培したり移動したりすることが法律で禁止されています。

当日は、「河川工事を考える会」の会員など約40名が、名札谷に群生していたオオキンケイギクを根から抜き取って袋詰めをし、焼却処分のためトラックへの積込作業を行いました。同会では、近くでこの花を見かけたら駆除に協力してほしいと呼び掛けていました。



▲会員らによる一斉駆除作業